

小木の子 われら

校 区 内
全 戸 回 覧

令和7年12月24日発行

どんな「いいねの花」を届けましたか？
そして、どんな「いいねの花」が届きましたか？

～「あれども見えず」と「プライミング効果」の巻～

校長 本間 智英

今日で2学期82日が終了しました。先週は、インフルエンザによる学年閉鎖や校外の方を招いての教育活動の延期等の措置をとりましたが、保護者、地域の皆様のご支援、ご協力のおかげで、子どもたちは**充実した2学期**を過ごすことができました。ありがとうございました。



各教室に飾られた
「いいねの花たば」

11月は、「いじめ見逃しゼロ強調月間」でした。学校では、「いいねの花たば」の取組を行いました。学級の仲間など、身近な人のよいところを見付け、言葉として伝える活動です。掲示された花たばには、心のこもった「いいね」が並び、校内が温かな空気に包まれました。

この取組をとおして感じたのは、「よいところを見付けよう」と意識することが、**私たちの見方を大きく変える**ということです。心理学では、先に与えられた言葉や考えが、その後の感じ方や行動に影響を与えることを**プライミング効果**というそうです。

「よいところを見付けよう」という言葉が、子どもの心のスイッチとなり、仲間を見る視点が変わるきっかけとなります。子どもたちからは、「〇〇さんは、いつも周りをよく見ている」「△△さんは、困っている人に声をかけている」といった声が聞かれました。この行動は、以前からあったと思います。しかし、「あれども見えず」という言葉があるように、意識が向かないことで気付かないことがたくさんあるように思います。

私たち大人も同じです。どんな視点で子どもたちを見て、どんな言葉をかけるのか。その一つ一つが**子どもたちの安心感や自己肯定感**につながっていきます。「いいねの花たば」は、**自分の見方を育てる取組**です。これからも、子どもたちの中にあるたくさんの「いいね」に気付ける学校でありたいと思っています。

よい年をお迎えください

